常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ

令和　４年１１月　２日(水)

通算 274 号

１１/4（金）の発行は、「山の学習」のためお休みします。

◇ 小沢昭一的こころ

ずいぶん前になる。もう 40 年以上前か…　学生の頃にカーラジオで聞いた話。

TBS ラジオ系列（東海エリアでは CBC ラジオ）が、毎日、平日の夕方に放送していた長寿番組【小沢昭一の小沢昭一的こころ】という番組をご存じだろうか。

スタートは三味線（しゃみせん）で、「♪ﾁｬﾝ ﾁｬﾁｬ ﾁｬﾝ ﾁｬﾁｬｯﾁｬ ﾁｬﾝ ﾁｬﾝ ﾁｬﾝ…」、途中から「♪口笛」に。
『口演（こうえん）：小沢昭一　構成：宮腰太郎　お囃子（おはやし）：山本直純（なおずみ）…』で始まる娯楽番組だ。
（※山本直純は、「男はつらいよ」の作曲家）

番組は、漫談や小咄（こばなし）、本人の体験に基づくエピソードなどを、小沢さん独特の軽快な語り口調で氏が語る（※「口演（こうえん）」という）ラジオトーク番組。中心核は「笑い」だが、時折、深く頷（うなずか）かされた。
うんちくを傾けた説得力のある話がアクセントとなり、聞き手を楽しませた長寿番組だが、調べてみると氏がお亡くなりになられる平成 24 年まで番組は続き、半世紀近くに渡って放送された。

たまたま点（つ）けていたカーラジオから聞こえてきたのが、この「小沢昭一的こころ」。ラジオから聞こえてきた【とある話】が、妙に心に響いた。

口演は、だいたい小沢氏の「一人芝居（※主人公は架空の宮坂さん）」から始まる。
ここでの「シュチエーション」と「二人の会話の流れ」は、こんな感じ。

主人公の「宮坂さん」が運転する自家用車の助手席には「宮坂さんの奥さん」。穏やかに運転する宮坂さんだが、ある拍子に機嫌（きげん）を損（そこ）ね、怒（おこ）り始めてひとり言。
宮坂さんの様子の変化を奥さんが察し、「どうしたの？」と問いかける。宮坂さんは、その一言で堰（せき）を切ったように荒れ口調で話し始める。
宮坂さんの話を黙って聞いていた奥さんだったが、話が終わると一呼吸おいて宮坂さんに向けて話しはじめる。
奥さんの話を聞き終えると、宮坂さんも吹っ切れたように穏やかさを取り戻す。

奥さんの話がよかった。【腑に落ちる】とは、まさにこのこと。　詳細は裏面に。

口演場面の詳細は、日常でよくある場面。自家用車を運転する者なら、一度は遭遇(そうぐう)したことがあるだろう。

対向車とのすれ違いがようやくできるような細い道を運転していると、向こうから対向車がやってくる。このままだと、車のすり抜けも困難だ。だから、路肩(ろかた)に車を寄せて、対向車を優先させたのが、主人公の宮坂さん。よくある場面だ。

その後、宮坂さんが気分を害して怒り始める。怒りの矛先(ほこさき)は対向車の運転手だ。こちら（宮坂さん）は、対向車の運転手を気遣い、車の通り抜けがしやすいように路肩に車を止めてスペースを空けてあげたのに、車がすれ違う際、対応者の運転手は知らんぷりして通り抜けた。この態度に宮坂さんは腹を立てたのだ。
「よくある話」である。

そこで、奥さんの「切り返し」がお見事だった。

奥：あなた（宮坂さん）が車を路肩に寄せたのは、あなたが「よかれ」と思ってしたことでしょ。 でも、同時にあなたは、車がすれ違う際、当然、相手の運転手が、車を脇に寄せたお礼を、当然してくれるものだと思っていた。 会釈するとか、軽く手を挙げて合図を送るとかね。 けれども、それがなかった。
そのことに腹を立てているわけでしょ。　　宮：そうだよ。

奥：でも、相手はどうだったのかな。 車の運転が大の苦手だったのかもしれない。 止まってくれたお礼をしなきゃいけないことは分かっているんだけど、運転することにいっぱいいっぱいで、それすらできなかったかもしれないじゃない。
宮：思い返してみると、そんな気がしてきた。

奥：もうひとつ。 大事なのは、「考え方」だと思うの。　宮：考え方ねえ…。

奥：あなたは、車を路肩に寄せた時に、「やってあげたんだから、お礼がある」と思い込んでいたじゃない。 ここよ、問題は。
あなたが相手を思い遣(や)って取った行動だから、それだけでいいじゃない。
挨拶とか会釈とか、相手から「見返り」があると思うから腹が立つのよ。
宮：今回ばかりは一本取られたわい。　奥：何言っているの。いつものことじゃない。
「♪チャン チャチャ チャン チャチャッチャ チャン チャン チャン…　♪チャチャッチャン　チャチャ↑チャチャン　チャンチャチャチャーン♪」

親切も、挨拶も同じ。自ら主体的に行うことに意味があるという教訓である。